

# 「雨が降ってきたので、片づけておきましたから」



79.10.6  
No. 241

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八・九・公衆(瑞志)22・七二〇七

国鉄千葉動力車労働組合

「しよぼくれ  
オルグ団の近況  
津田沼」

## 『勤務の厳正』を卒先して実行 する島田ら裏切り密通分子！

九月二五日、勤労千葉破壊のための出撃拠点として「千葉事務所」なる中味の無い「器」をデッチ上げた勤労「本部」は、今度はこの事務所の「防衛」にのみキウキウとして、逆に新小岩、津田沼の裏切り密通分子の出動・退庁時の防衛にまでは、手がまわらないというのが最近の彼らの状況である。そして、たまたま四五人の小人数で、新小岩、津田沼などにやってくる反動分子は、全く消耗しきった姿で来たかと思つてしまふという仕末である。彼らが、千葉破壊をあせれば、あせるほど、われわれは、ますます団結を強め、勤労大改革を着実にすすめて、国鉄再建Ⅱ三五万人体制攻撃と対決する組織体制確立にむけてさらに前進しよう。

当局的好意と指示に尻尾をふつて従がう「本部」反動分子！

一〇月×日、津田沼電車区

大宮支部のオシヤベリ野口を先頭に数名がやってくる。

そして、例によって、庁舎前の広場(鳥小屋の脇)の芝や枕木に思い思いにこしかけ、なにをするでもなくただただ時間まですわりつづけているのだ。

乗務員詰所の方向に歩いている支部青年部活動家A君にむかつて、野口がまだ休み時間ではない、うるうるするなといわんばかりに、「やけに早いじゃないか(?!)」と話しかけてくる。

A君「なんだ、又、ろ・8適用を当局にお願いするのかわい！」

するとあわてた様子で野口「いや、いや、なんでもないよ！」と、打ち消す。

当局に泣きついたり、たれこんだりする彼らの日常的な様子がこの間、「日刊」で事実をもって糾弾されたことで、相当消耗したように見える。

その内、雨が降ってきた。彼らは、そそくさと庁舎玄関に近づく。すると、これをどこで見ているのか、区当局も、玄関まで出かけていく。

〇〇助役「雨がふってきたので、〇〇番線の電車の中に入れて下さい」

野口「あっ、そう、じゃ、行きますから」

このやりとりを見ていた支部青年部員の

B君「なんだ、野口、ずいぶんおとなしく当局のいうとうりにするじゃないか」

野口「いやあ、ここに(玄関)いて、じゃまになっちゃ悪いからよお！」

そのうち乗務を終って帰ってきた組合員〇君が、区当局にむかつて、

〇君「今日は『本部』の連中は、来ていないのか」  
〇〇助役「今日は雨でするので、〇〇番線の奥の方に入れてありますから(?!)」  
なんのことはない、荷物でも処分するつもりになっている。

マル生分子島田を先頭に「千葉再建」を策動する勤労「本部」！

勤労「本部」のめざす「千葉再建」なるものはいかに反動的で、反階級的なものであるかは、この間の彼らの言動と行動で、もはや明らかであるが、より決定的なことは、マル生分子島田の存在である。

すなわち、勤労千葉潜入東洋大学革マル分子島田誠は、毎日、「勤務の厳正」を自ら卒先して実行し、マル生分子として、三五万人体制合理化を推進する国鉄当局の尖兵となっていることである。勤労「本部」がいかに戦闘的なことをいおうとも、現実に「貨物安定宣言」をもって三五万人体制攻撃に屈服する路線をあゆみ「千葉再建」の策動が闘う勤労千葉を破壊するものであることは、もはや明らかである。

島田らの反動分子に更なる大衆的糾弾を！

こうした島田を先頭とする「千葉再建」策動が明らかにマル生的であり、国鉄当局に屈服する「労働組合」を作り上げようとする極めて反動的なものである。われわれは、断じて、こうした策動を許すことなく、職場における更なる大衆的糾弾をあげようではないか。

明日10月7日みんな投票へ！ 社会党候補を当選させよう！